

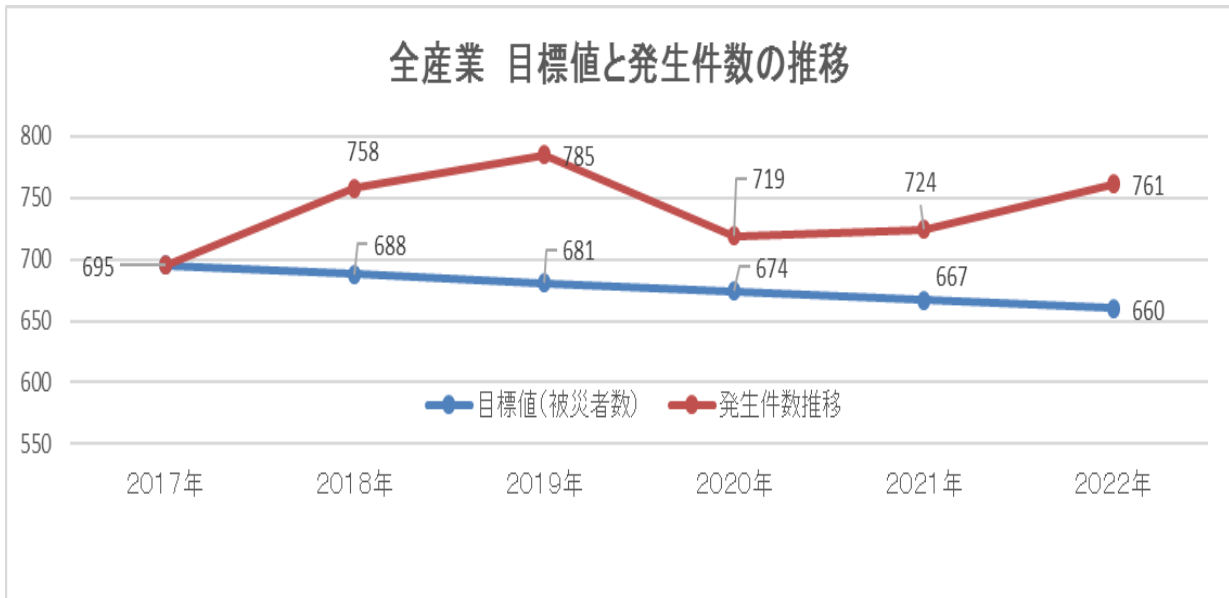
横浜南労働基準監督署管内における
転倒、動作の反動・無理な動作の労働災害発生状況



令和5年4月作成

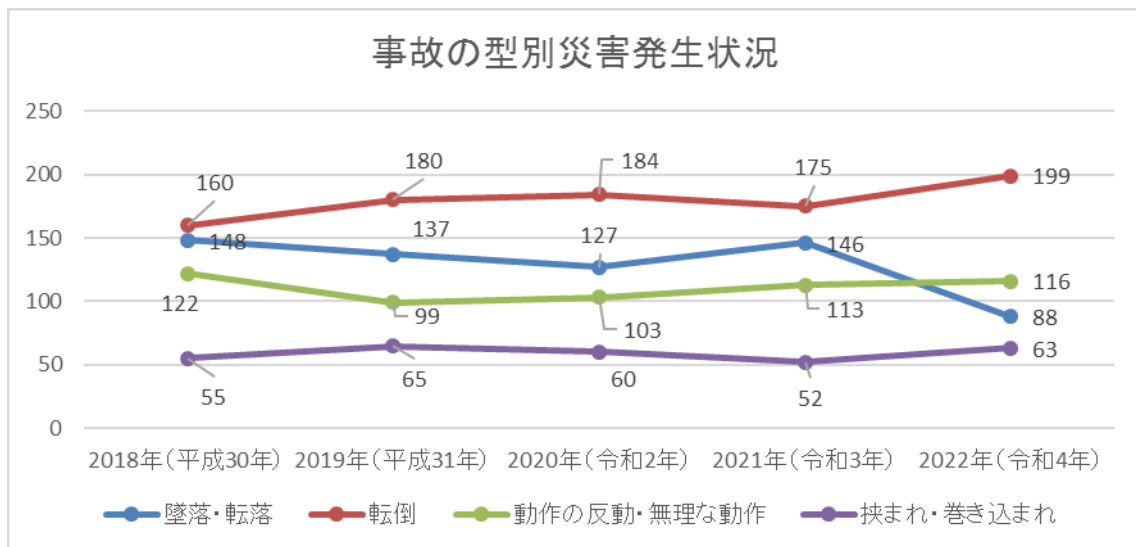
労働者死傷病報告調べ

1. 第13次労働災害防止計画の結果



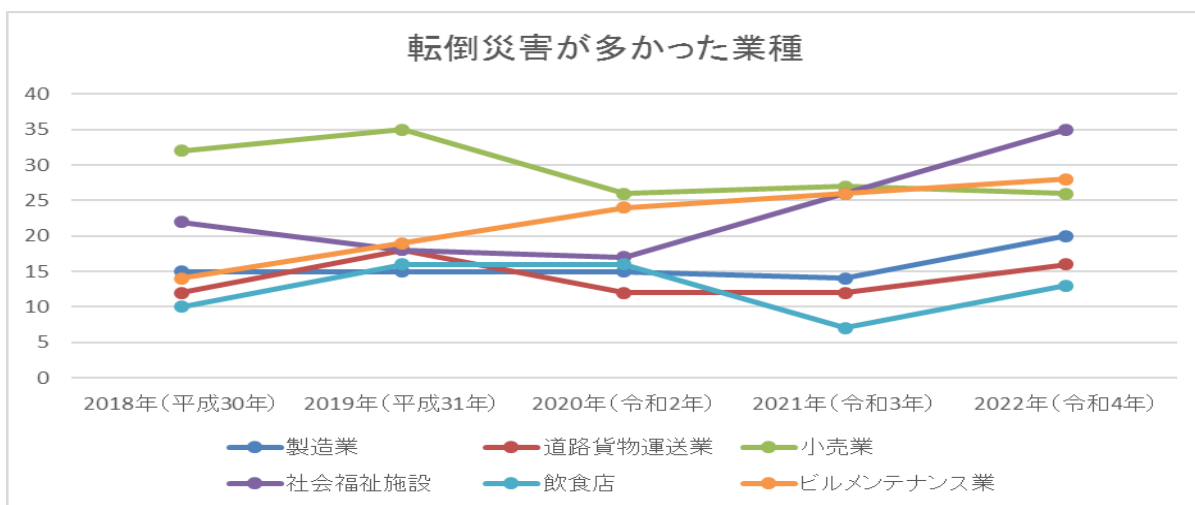
第13次労働災害防止計画では、2018年を初年度として、始まったところであるが、上記のグラフ(新型コロナウイルス感染症を除く)のとおり目標数値には、達成できなかった。なお、災害件数は、労働者死傷病報告からであります。

事故の型別における第13次労働災害防止計画中の統計について



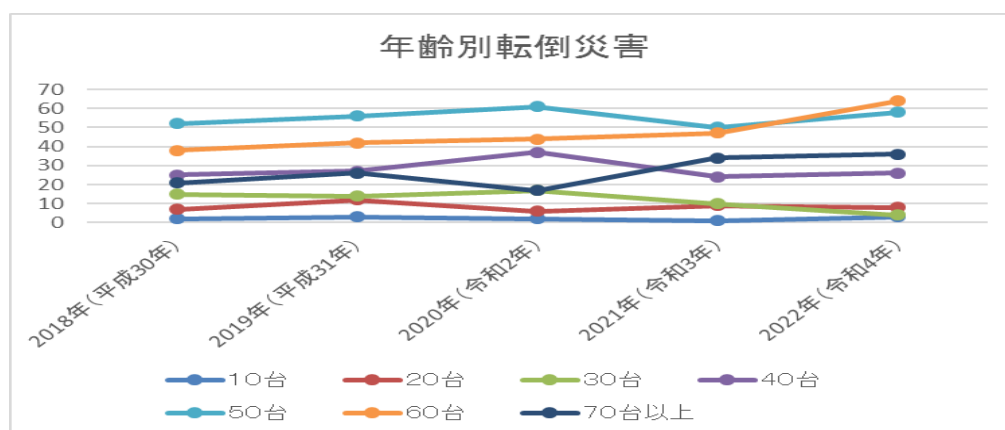
災害発生件数が多い事故の型について、第13次労働災害防止計画期間中の発生状況を見ると、墜落・転落災害の発生件数は減少したものの転倒災害、動作の反動・無理な動作、はさまれ・巻き込まれによる災害は増加した。

2. 転倒における災害発生状況



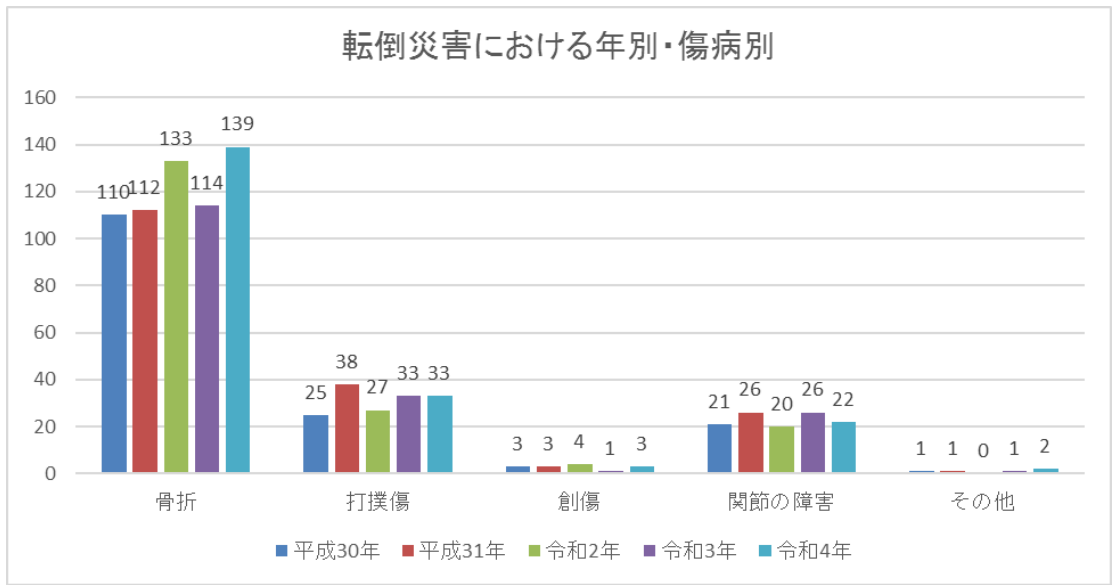
	2018年(平成30年)	2019年(平成31年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)
製造業	15	15	15	14	20
道路貨物運送業	12	18	12	12	16
小売業	32	35	26	27	26
社会福祉施設	22	18	17	26	35
飲食店	10	16	16	7	13
ビルメンテナンス業	14	19	24	26	28

転倒災害が多かった業種を選定した統計です。小売業は減少傾向ではありますが、その他は令和2年から減少するものの令和4年は増加しています。



年齢別	2018年(平成30年)	2019年(平成31年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)
10歳台	2	3	2	1	3
20歳台	7	12	6	9	8
30歳台	15	14	17	10	4
40歳台	25	27	37	24	26
50歳台	52	56	61	50	58
60歳台	38	42	44	47	64
70歳台以上	21	26	17	34	36

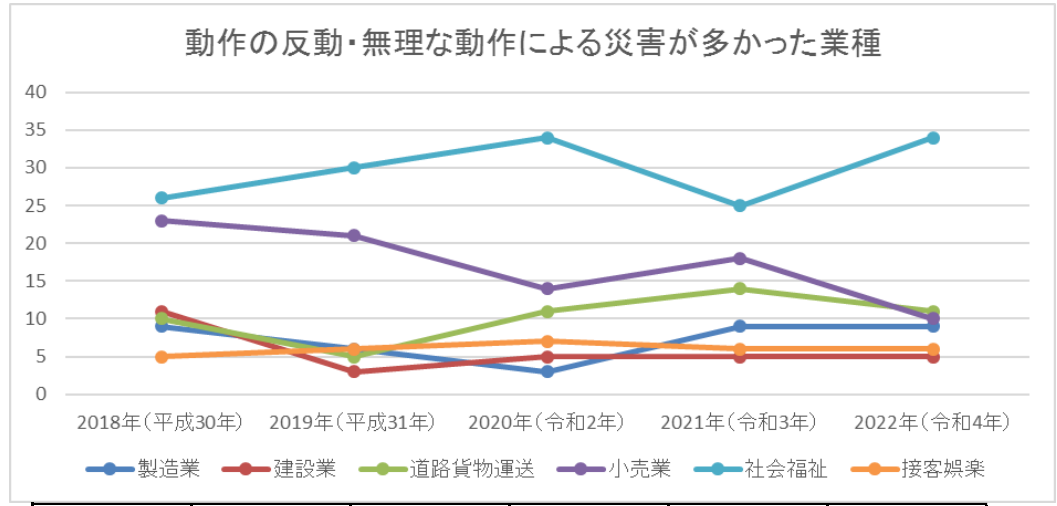
年齢別で見ると、10～30台については、毎年の件数も少ないが、50台、40台が非常に多く発生しており、増加傾向である。全体的にみても増加傾向である。



傷病別では、転倒して、手首、腕、足の骨折が多く発生しています。骨折までにはなりませんが打撲傷、関節の障害という捻挫等による災害が多くなっています。

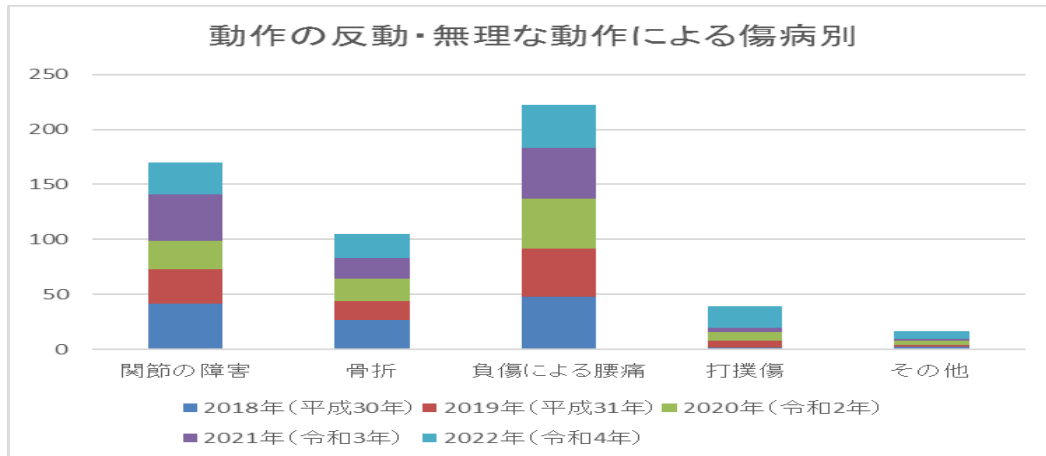
3. 動作の反動・無理な動作における災害発生状況

動作の反動・無理な動作には、腰痛災害も含まれます。



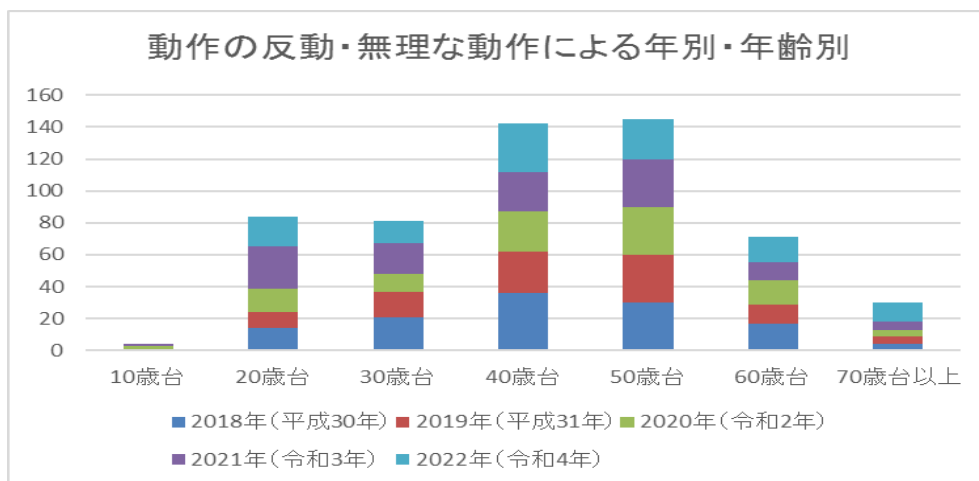
	2018年(平成30年)	2019年(平成31年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)
製造業	9	6	3	9	9
建設業	11	3	5	5	5
道路貨物運送	10	5	11	14	11
小売業	23	21	14	18	10
社会福祉	26	30	34	25	34
接客娯楽	5	6	7	6	6

動作の反動・無理な動作による災害は、小売業は減少してはいるものの他の業種では、横ばいで、社会福祉施設に関しては、令和3年には減少するものの増加しています。



	2018年(平成30年)	2019年(平成31年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)
関節の障害	42	31	26	42	29
骨折	27	17	20	19	22
負傷による腰痛	48	44	45	46	39
打撲傷	2	6	8	4	19
その他	3	1	4	2	7

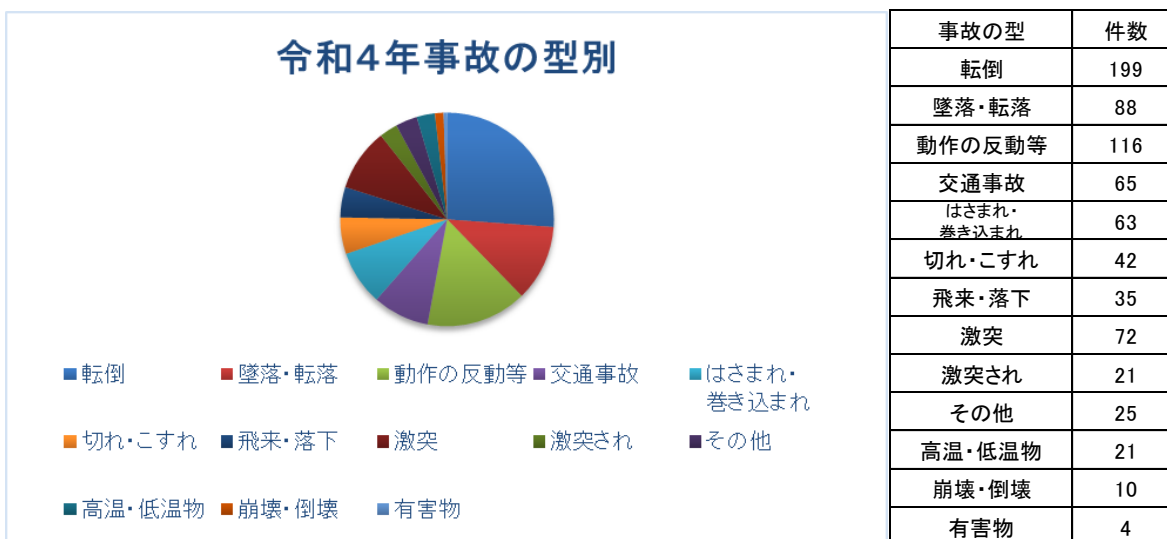
動作の反動・無理な動作による災害は、傷病別でみると腰痛がもっとも多く、続いて関節の障害がおおくなっています。



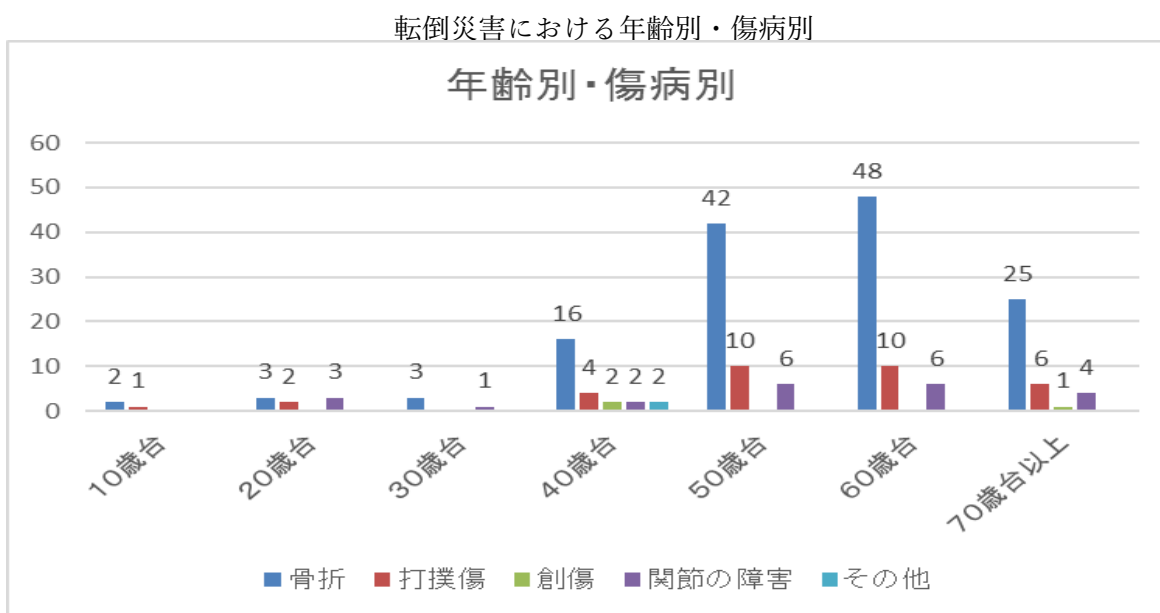
	2018年(平成30年)	2019年(平成31年)	2020年(令和2年)	2021年(令和3年)	2022年(令和4年)
10歳台	0	0	3	1	0
20歳台	14	10	15	26	19
30歳台	21	16	11	19	14
40歳台	36	26	25	25	30
50歳台	30	30	30	30	25
60歳台	17	12	15	11	16
70歳台以上	4	5	4	5	12
合計	122	99	103	117	116

年齢別では50歳台が最も多く毎年、ほぼ同じように発生しています。また、40歳台から増加しており令和4年では、70歳台以上が12件と増加しています。

4. 令和4年における転倒・動作の反動・無理な動作の災害発生状況



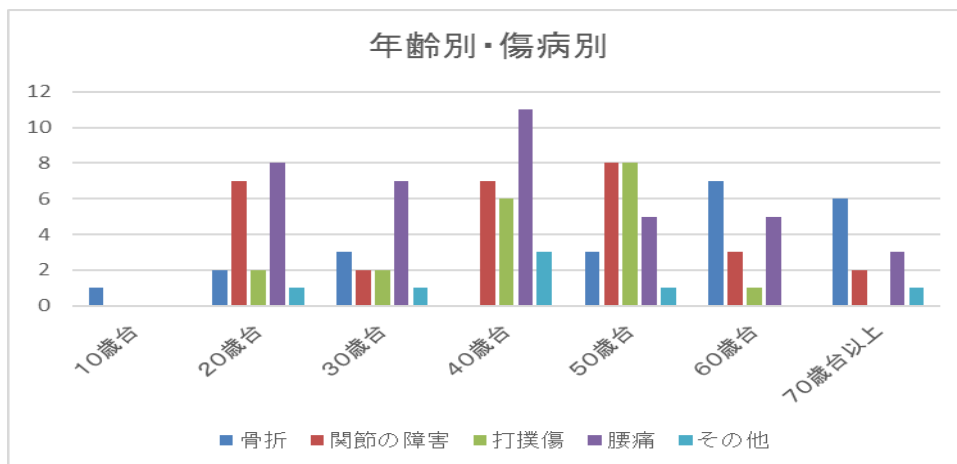
令和4年では、転倒災害が最も多く、続いて動作の反動等となっています。



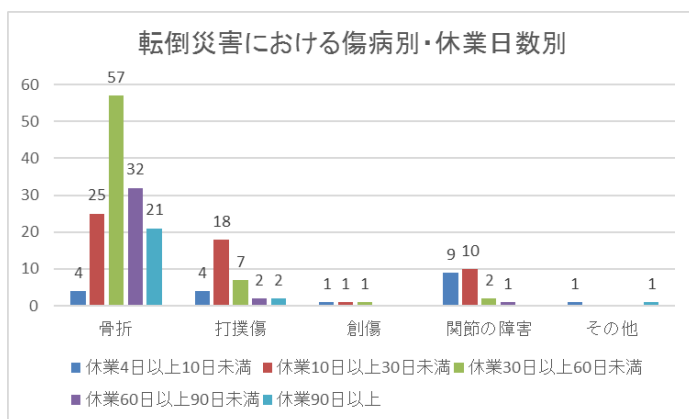
	骨折	打撲傷	創傷	関節の障害	その他
10歳台	2	1			
20歳台	3	2		3	
30歳台	3			1	
40歳台	16	4	2	2	2
50歳台	42	10		6	
60歳台	48	10		6	
70歳台以上	25	6	1	4	

転倒災害では、骨折が最も多く、高齢労働者になるほど多く見られます。

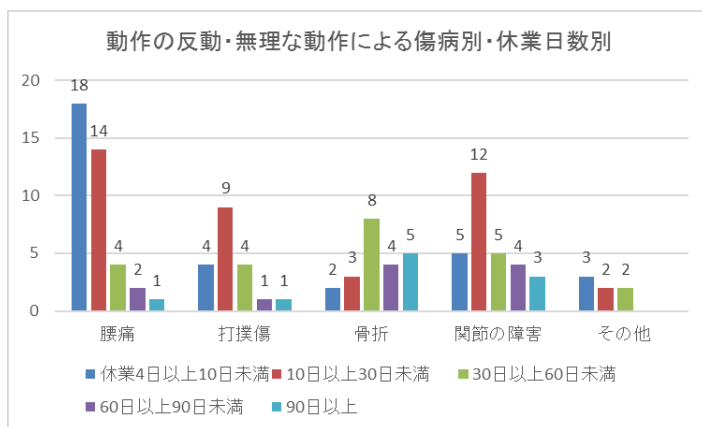
動作の反動・無理な動作における年齢別・傷病別



	骨折	関節の障害	打撲傷	腰痛	その他
10歳台	1				
20歳台	2	7	2	8	1
30歳台	3	2	2	7	1
40歳台		7	6	11	3
50歳台	3	8	8	5	1
60歳台	7	3	1	5	
70歳台以上	6	2		3	1



骨折による休業日数が最も多く休業90日以上が21件発生しています。



腰痛が多く発生しているが休業日数としては4日以上10日未満が多く発生しています。休業が長いのは骨折によるものが多くなっています。

災害防止のため職場をチェックしてみましょう！

転倒災害	
通路、階段、出入口に物を放置していませんか	
床の水たまりや水、油、粉類など放置せず、その都度取り除いていますか	
安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	
段差のある場所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていますか	
ポケットに手を入れたままやスマホを使いながら歩くことを禁止していますか	
動作の反動・無理な動作（腰痛など）	
台車などの道具や補助機器を使うなど作業者の負担を減らす省力化を行っていますか	
無理な作業姿勢、作業時間、作業量などを行っていませんか	
休憩時間をこまめに取っていますか	
共通事項	
作業靴は、作業に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいますか	
転倒・腰痛などを予防するための教育を行っていますか	
ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	

安全、安心な職場環境づくりを進めましょう！